練習中はどのメンバーも真剣そのもの。

学生時代を謳歌するならやっぱりサークルでしょ。

We Love Circle

卓球部

放て！勝負をかけた一球！

一瞬の打ち返しで勝負が大きく左右するスポーツ、卓球。今、卓球界では若い世代が世界で活躍しているということもあり、その期待度や注目度は全国的に高まっています。スピードにのった球を的確に打ち返し、そこで勝負をかけるには、常に球の動きを見極める判断力と集中力、そして瞬発力がものをいいます。

長崎大学卓球部は、現在男女34名の部員全員で、年に2回、春と秋に行われる九州大会と夏に行われる全国大会に向けた練習に励んでいます。卓球場の扉を開くと、キュッキュッという俊敏なシューズの音が鳴り響くなか、真剣な表情で互いに声を掛け合いながら、練習に取り組むメンバーの姿は印象的。毎日2時間、多い時で4～5時間、メンバーはそれぞれ空き時間をうまく利用し、ひたすら練習を重ねています。

部長の吉村さん（経済学部3年）は、「卓球部は男女とも団体戦での全国大会出場を目標にしているのですが、やはり私たちと同じ目標を掲げている大学は多く、少しでも気を抜くと全国大会出場が遠のくという状況です。どのチームも力が接近しているからこそ、その差を少しでも広げたい。だから、集中して日々の練習を着実にこなすことはもちろん、合宿などを通して一人ひとりが精神面の強化を図り、チームワークを高め、自信を持って試合に臨むことが重要なんです。」

現在のメンバーは全員が早くからの卓球経験者。それだけにフォームや手足の動き、打つときのラケットの角度など細かい部分を何度も注意深く確認しながら微調整を行い、それを体にたたき込むように練習が行われています。また、陰ながらメンバーのサポートをしてくれる全国大会出場経験のある卒業生の指導も行われ、質の高い内容の練習が彼らの技術力を日々アップさせています。今年はそんな部員や卒業生が一丸となり地道に練習を重ねてきた甲斐あって、5年ぶりに男子団体が全国大会出場権を獲得することができました。

練習が終わると、とたんに和気あいあいとなるメンバー達。
練習と学生生活のメリハリがすでに全員に染みついていることを感じさせます。

「入部してまもなく、全国大会出場だけを目標に、先に行われる九州大会に挑みましたが、例年順調だと聞かされていた男子団体、徐々に実力を上げていった女子団体とも九州大会の時点で順位降格という結果に終わってしまいました。それまで全国大会への道を切り開いてきた先輩方を裏切る結果になったことをすごく後悔しました。その悔しさとショックは今でも忘れられません。」と語る吉村さん。

その後、部長となり、再び「全国大会で結果を残してメンバーと勝利の喜びを分かち合いたい！」と心に決めた吉村さんは、勉強以外のほとんどの時間を卓球に注ぎ込んできました。そして今年、再びメンバー全員で勝ち取った全国大会への切符。強豪が揃う全国大会出場の第一関門を乗り越えたメンバーが次に目指すのは、「全国優勝」という4文字です。これからの大会に向け、さらなる実力強化に取り組む卓球部に大きな期待が寄せられます。

「私立大学の中には、自分たちよりも倍の練習量をこなしている大学がたくさんあります。そこに負けないためにもそれぞれが練習で自信をつけ、モチベーションを高めることで試合を乗りきることが大切だと思います。」と吉村さん。

卓球部部長
吉村　幸三さん
（経済学部3年）